

第32期目録委員会記録 No.1

第1回委員会

日時：2009年4月25日（土）14～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、中井前委員長、東、木下、平田、古川、横山、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. Categorization of Content and Carrier (JSC) (8ページ-A4、古川委員コピー)
2. RDA最終草案 第7章 内容の記述 (4ページ-A4、木下委員)
3. RDA最終草案 第8-9章 (7ページ-A4、渡邊委員)
4. RDA最終草案 (2008年11月) 第10章 (4ページ-A4、中井前委員長)
5. 2008年10月31日RDA草案 第11章：団体の識別 概要 (5ページ-A4、横山委員)
6. RDA最終草案 第16章：場所の識別 概要 (3ページ-A4、木下委員)
7. RDA draft Section8, 9について (5ページ-A4、平田委員)
8. 2008年10月31日RDA草案 付録A：大文字使用法、B：略語、C：冒頭の冠詞 (3ページ-A4、横山委員)
9. RDA第7章以降の担当 (案) (1ページ-A4、古川委員)
10. 第31期目録委員会記録 No.17 (案) (4ページ-A4、事務局)

[報告事項ほか]

1. 委員長と委員の交代

中井前委員長より、委員長が同氏から原井直子氏（国会図書館）に、委員が稲浜氏から東弘子氏（国会図書館）に交代するとの報告があった。また公共図書館員や研究者の委員の補充などの懸案は未解決で、引き続き今後の課題として残されている、との報告があった。

なお今回の司会の中井氏が務めた。

2. 国立情報学研究所および国会図書館による報告について

平田委員より、次世代目録に関する最終報告書が完成したとの報告があり、中井氏より、書誌調整会議の報告が公開されたとの報告があった。

3. 目録に関する調査について

古川委員より、かつて十年未満の間隔で実施されてきた目録委員会による目録に関する調査が、1998年以来行われていない、目録の激変期における統計を残さなくてよいか、と

の発言があった。協会の付帯調査廃止の理由を確かめたうえで、再考することとした。

[検討事項]

1. RDAの最終草案 第6章（補足）

古川委員から資料1に基づき内容種別についてほかの種別と併せて説明があり、以下の意見があった。

- ・ cardとsheetのように識別が不徹底な個所がある。
- ・ audio carrierに分類されているaudio film reelは、媒介機器がprojectorである観点からすれば、projector carrierに属するとも言えるのではないのか。
- ・ 全体として得心しがたい表である。
- ・ 「内容種別」はあいまいで誤解を招きやすい訳語である。

2. RDAの最終草案 第7章

木下委員から資料2に基づき説明があり、以下の意見があった。

- ・ 2007年3月の案にあった著作と表現形の区分が、廃止されている。
- ・ 演奏者などの表示が本章に含まれているが（7.23）、この方針に従えば、第2章にある責任表示のうち、著者や訳者の表示も第7章に含めることとなり、第2章に残るのは版にかかわる著者だけとなりはしないか。
- ・ Awards（7.28）は、表現形とは限らずさまざまな実体に関するエレメントである。
- ・ 本章などで、著作と表現形にかかわるエレメントを一括して取り上げているのは理解し難い。

3. RDAの最終草案 セクション3およびセクション4第16章

渡邊委員から資料3に基づきセクション3 第8-9章の、中井前委員長から資料4に基づき第10章の、横山委員から資料5に基づき第11章の、そして木下委員から資料6に基づきセクション4 第16章の説明があり、各々について以下の意見があった。

- ・ 最終草案後のJSCの会議で、「優先アクセスポイント」が「典拠形アクセスポイント」と改称された。
- ・ 表現が国際化されたとは言い難い個所があり、巧みに処理されていない。
- ・ 中間見出しの有無が章によって異なる。
- ・ 第16章は参照先の誤りが多いなど、完成度が低い。

なお委員の交代により、次回では資料9にあるように東委員がセクション5と付録FGHを担当する。

4. 議事録の確認

第17回記録案（資料10）を確認した。

次回以降の委員会の予定

5月23日（土）

6月20日（土）

以上